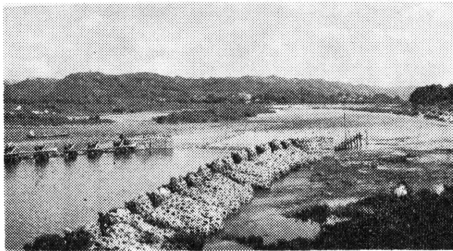


鳥山附近の那珂川



夏秋きゅうりの集団転作に成功した 鳥山町(栃木県)を訪ねて・・・

齊藤昭三さんと語る

河見 泰成

去る8月27日に農林省から公表された、ことしの米収穫予想(8月15日現在)によると、冷害による北海道の不作を反映して、全国的には、やや不良(指数98)、これから換算した全国の予想収穫高は、陸稲を20万トンとして、1,137万トン、年間需要予想量より28万トン下回りはするが、これで、当面の米の過剰問題も、どうやら解決のメドがつくらしいといわれている。

だが、さて考える。なるほど“米減らし”は、現時点におけるわが国の農政上、最大の命題であろう。しかし、この頃のように、米を“斜陽族”扱いして、あとに悔いが残らずに済むだろうか?一抹の抵抗感を覚える。

年配の方ならご存知だと思うが、第一次世界大戦当時、米・英・仏の“連合軍”側に荷担したお蔭で?、わが国は空前の繁栄に恵まれながら、“米騒動”が各地で勃発している。これと反対に、今度の戦争では、老若を問わず、徹底的に食糧の欠乏に悩まされた。

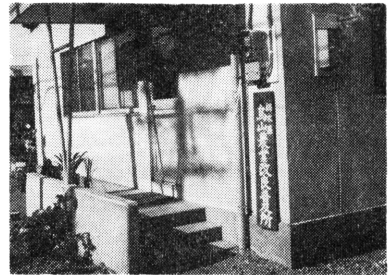
戦争を例にとるのは適切でないというなら、もし国際的な異変事が勃発して、食糧の大量移動が不可能となった場合、われわれはどうすれば良いのか?日本の食糧問題は、常に、こういう点を考えておく必要があるのでは

なかろうか?

米の過剰問題は一応決着がついたといわれているので、生産調整に対する是非論には触れないが、ことここに到るまで、全国の稲作農家がどんなに苦勞したことだろう! 休耕も止むを得ないとする一方、積極的に転作して成果をあげた農家も少なくないようだ。

転作成功の1例が、本誌8月号に掲載された滋賀県大中の湖干拓地の集団スイカ栽培であり、ここにとりあげる栃木県那須郡鳥山町一帯の生産農家の、鳥山夏秋きゅうり集団転作である。

栃木県那須郡というと、すぐ那須山(茶臼岳)を考えたが、地図を見て戴くと判るように鳥山町は茨城県北部と、福島県南部(磐城)との県境にある八溝山(やみぞさん)を起点として南走



鳥山普及所の正面

鳥山夏秋きゅうりの栽培方法(概要)

を戻す。

圃場の条件

- ① 畑の場合は、瓜類の栽培を4～5年休んだところを選ぶ
- ② 排水良く、かつ保水力があり、ネコブ線虫の少ない中庸以上の土地であること。
- ③ 灌水が便利なこと。
- ④ 水田の場合は、とくに排水の良いところ。

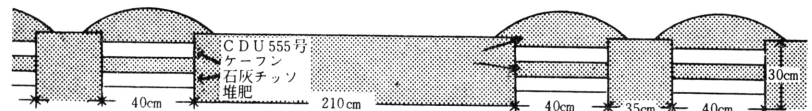
圃場の準備

A① 畑の場合(10a当り)

イ 全層施肥=11月下旬、10cmくらいに切った生わら600～700kg、熔りん60kg、苦土石灰120kgを全面散布し耕耘機で深耕し全層に混入する。

ロ 土壌消毒(略)

ハ 深層施肥=4月上旬、図のように掘り割りを行ない、堆肥2,500kg、CDU555を60kg、ケーフン200kg、石灰窒素50kg(直播の場合は全層施肥)を二層に入れ、土



ニ 表層施肥=4月中旬掘り割りし、土を戻した上に幅40cmで完熟堆肥1,000kg、磷硝安加里1号40kg、CDU S555を20kg施用し、耕耘機で表面の土に軽く混合する。

② 水田の場合(10a当り)

イ 全層施肥=11月下旬、生わら600～700kg、堆肥1,000kg、苦土石灰120kg、熔りん60kgを全面に散布、耕耘機で深耕し全層に混入する。

ロ 深層施肥=4月上旬、畑の場合と同じ要領で掘り割り(すき床まで)し、CDU S555を60kg、ケーフン200kg、堆肥1,500kg、石灰窒素50kg(直播は全層施肥)を一層に入れ土を戻す。

ハ 表層施肥=4月中旬掘り割りし、土を戻した上に

する“八溝山地”の尺丈山を北東に眺める緑濃い山あい
に、おっとり構えた町である。われわれが訪れた日は真
夏の空あくまであおく、だいぶ離れた普及所にも、
耳をすますと、つい今しがた見てきた那珂川の川波の音
が聞えてくるようであった。

一作だけでどうして市場を席捲したか

“宇都宮にいたとき会ってるって？ 忘れたなあ。こう
いう頭の悪い人間だから…、本当は、俺も新聞記者に
なりたかったけども、頭が悪くばっかりに、こうい
う始末。まあご免なんしょ。アハ…”

頭のとっぺんから飛び出すような、カラッとした声
が、室いっぱい響いて、一枚の名刺がテーブルに置かれ
た。“栃木県烏山農業改良普及所・専門普及課長・齊藤
昭三”とある。

“さて、何から話したらよかっぺ？ この辺の農業は
水田4,773ha 畑が3,700haで、水稲プラスチック、水稲
プラスチックというのが主なタイプだけど、タバコは
南那須地区4カ町村で42年には1,110haあったが、
この頃では900haに減っちゃった。(それでも県内の殆ど
を占める。)そこへもってきて、10%以上も“米減らせ”と
きては、農家も楽ではなかつた。ご覧のとおりこの辺
一帯は、那珂川をはさんで前後を、そう高くはねえけ
ども山に囲まれてる過疎地帯、農業で何んとか食いつな
いでいく以外に手はねえす、そこで……。

休耕して土地を荒すより、有利と思われるそ菜-夏秋
きゅうりの集団転作が考えられた。ちょうど昨年4月、
齊藤さんが宇都宮からここ烏山に転任されてきた頃のこ
とである。

幅40cmで完熟堆肥1,000kg、 燐硝安加里40kg、 C D U S
555を20kg施肥し、耕耘機で表面の土に軽く混合する。

柱とネットの張り方

10a 当り鉄骨パイプ170セット、 鉄線16番線約2,700m
ビニネット18m もの約40枚、 但しワンタッチ (ダブル
幅) の場合は約20枚を準備し、右図のように張る。

育苗

冷床育苗による移植栽培

イ 床土=前年の10月までに春きゅうりの育
苗床土に準じて堆積する。

床土のない場合は、播種1カ月前に水田の土
と完熟堆肥(腐葉土が理想的)3:7の割合で
混合する。10a 当りの容量は1,000~1,500ℓで
(窒素120g、 燐酸150g、 加里120gのほかに、
苦土石灰を400g)3回ぐらい切返し堆積してお
く。(使用前にVC粉剤かビニフェート粉剤を
1kg混合する。)

ロ 冷床の作り方(10a 当り)=厚さ1cm、

“もっとも、この南那須に、夏秋きゅうりが全然無か
った訳ではねえ。約10年前には約50人の農家が、20haば
かりやってたけども、何しろ8月下旬に播種、ほぼ50
日後の10月上旬からようやく収穫に入る。それも地這
えだ。多くとれたとこで10a 当り、1トン、 ならして
500kgというとこだっぺ、kg30円の収益として15,000円
の上がりでは仕方がなかつた。そこで、転作するとして
も、ひとと同じような事やってたんでは、おえねえ。
“追いつけ、追い越せ”ではなくって、“追い越せ、追
い越せ”…でえ訳で、思いきって“新技術栽培”に踏み
切りやした。”

こうして昨年は、小川町を中心にして約4haの夏秋き
ゅうりの“前進栽培”が手がけられた。栽培指導に当る
のは、かつて今市、宇都宮の普及所時代から、夏秋き
ゅうりの栽培にかけては名うての齊藤さん、そのうえ、き
ゅうりと取組んだ生産農家の意気込みがまる でちが
う。技術と熱が触れ合い、融け合って、数量は僅かなが
ら、昨年の一作だけで、東京市場に“夏秋きゅうりは烏
山”のイメージを植えつけたのは美事だった。

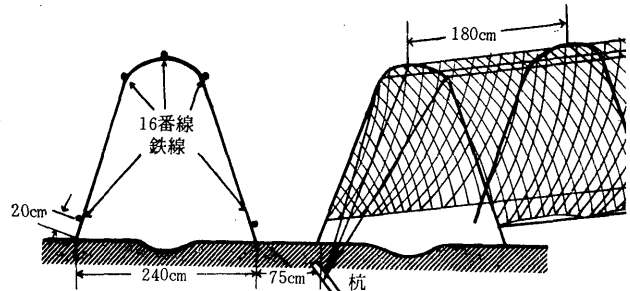
“こんな訳で、ことしの“烏山の夏秋きゅうり”は小
川町8ha、 烏山3ha、 その他1haで、 合計12haと、 昨
年の3倍増になりやした。本当いうと、 昨年どおり4月
下旬(25日)播き、あるいは5月上旬播きをやったん
ではいがねえと思って、 ことしは4月20日から25日播きと
し7月中に75%を出荷しちまう計画だったけども、 ち
いっとべえまづかつたなあ。なかに、 出来が悪かつた訳
ではねえ。悪りいどころか、 成り工合は昨年以上だった
けども、 なんとことしは値で叩かれやした。実は(…と、

幅18cmの貫板で床枠を作り、 枠の底に生わか籾殻を6cm
の厚さに敷き、 あらかじめ床土を入れておいたポリエチ
レン鉢かエンピ鉢を順序よくならべる。

ハ 播種=1本仕立の場合は10a 当り1.7dℓ、 1カ所2
粒播とし、 3本仕立の場合は1.2dℓ、 1カ所2粒播とする。

ニ 床面積=1本仕立、 12cm鉢使用の場合は16.5㎡、
3本仕立、 12cm鉢使用の場合は10.5㎡、 とする。

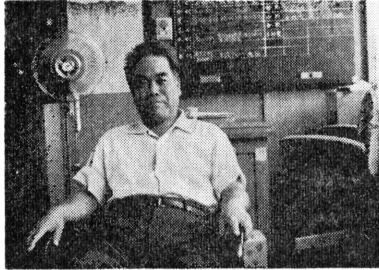
ホ 播種前後の管理=播種前日はタツプリ灌水してお
き、 鉢の中心に2cm間隔で播種したのち0.5cmくらい覆



小声で「福島の夏秋きゅうりに先を越されたのが原因らしい。さすがの斉藤昭三も、いささか情報不足ということだっぺさ、アハ……」

と、陽気に笑い飛ばしながら、

“何？俺の写真を撮る？それは大変、まさかジャツ1枚でいるところをお目にかける訳にもいぐめえ。ちよっ



シャツって訳にも
いかねえ……。
(ボーズをとった斉藤さん)

と待った！”

と、身仕度をして改めて身構えたところを撮ったのがこの写真。あけっぴろげで、こだわりのない性格とみえた斉藤さんの、几帳面(きちょうめん)な人柄をのぞかせた一瞬であった。

“まあ、こんな訳で、値段は多少あまかったけども農家は挫(く)じけるどころか、意気ますます軒昂、他県の産地に負けてなるもんかと、栽培技術の研究にも余念がねえ。来年は作付けも、相当増えべえなあ”

“でなけりゃ、せっかく転作にさ踏み切った農家も、間尺(ましかく)が合わねえし、指導の甲斐もねえというもんだ。勝負はこれから、これから…。栽培の概略は、あとで刷ったものを見てもらうとして、肥料はここ

土してから、うす目にスグリわらをかける。

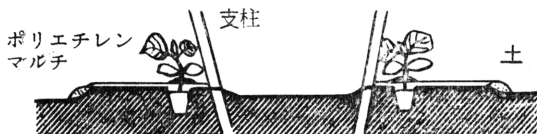
へ ビニール被覆=晩霜や冷風雨から保護するため、ビニールトンネルで管理する。(図は省略)

きゅうりは、とくに乾燥を嫌うので、床土が白くなってきたら、晴天の午前中に灌水する。

本葉1枚展開後ハサミで切りとって1本立に間引きする。

定植

① 準備=支柱立て前の降雨を見はからって、ポリエチレン60cm幅を図のように行ない、地温を上昇させておき、苗は5~7日前から夜間もビニールを落し外気に馴らし、定植当日の朝タブリ灌水してから定植する。



② 定植時期=5月15~20日頃(本葉2~2.5枚)

では燐硝安加里1号(15-15-12)とCDUS555(15-15-15)を使ってる。これが施肥基準例だ(けつどもと、別表を示して)きゅうりは結構、肥料を食うなあ。”

烏山夏秋きゅうりの“前進栽培”の概略は、別項のとおりである。

“話はこのくれえにして…、現場さ見にいぐべえ。烏山のきゅうりがどん



圃場の入口で……。
(左が斉藤さん右はチッソ旭の江口さん)

施肥基準例

| 肥 料 | 総量 | 全面又は 堀割施肥 | 播種溝又は 植付施肥 | 追 肥 | |
|--------|-------|--------------|---------------|-----|----|
| | | | | 1 | 2 |
| 堆 肥 | 3,500 | 2,500 | 1,000 | | |
| 熔成燐肥 | 60 | 60 | | | |
| ケーフン | 200 | 200 | | | |
| 燐硝安加里 | 100 | | 40 | 30 | 30 |
| 石灰窒素 | 50 | 50 | | | |
| CDU555 | 80 | 60 | 20 | | |
| 硫酸加里 | 20 | | | 10 | 10 |
| 苦土石灰 | 120 | 120 | | | |

な姿をしてるか、よく見ていってもらえ”と、斉藤さんの案内で、車で約10分ばかりの距離にある、ある農家の現圃を見た。

“もうそろそろ上がりだっぺな？”と、斉藤さんがい

③ 株 間

1本仕立の場合 55cm 10a当り 1,230本

3本仕立の場合 90cm “ 730本

直播栽培

① 播種量(10a当り)

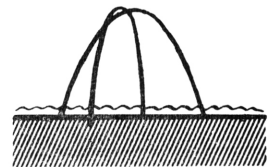
1本仕立の場合 2.2dl 1カ所3粒播

3本仕立の場合 1.7dl 1カ所3粒播

② 株 間=育苗栽培に同じ

③ 播種前後の管理=播種数日前に適当な降雨を見はからって、ポリエチレン60cm幅を図のように行ない、ポリエチレンのホットキャップを被覆するための支えとなる14番線の鉄線50cmを、播種予定の場所に挿しておく。

乾燥予防のため靱殻か切りわらを薄く敷き、被覆したキャップの裾の周囲に土をしっかりと乗せる。



④ 換気孔と間引き=

われるように、葉の枯上りが幾らか目についたが、それでもなお、すんなりと姿のいいきゅうりが結構ぶらさがっている。

この頃ちょいちょい地方へ出かけるが、葉がぐれに、スイカやきゅうりなどが覗(のぞ)いていたりすると、そのスイカやきゅうりなどが、何か話かけるように思われるのである。あるいはそれは、この激動期を苦悩する生産農家の、ものいわぬ声であるのかも知れない。



姿のいいきゅうりが……。

経営的に規模拡大につながらねば無意味

“烏山きゅうりの収穫目標は10a当り6トン、もちろん可能性はタップリある。kg当り55円として33万円の売上げ、収益をその6割とみて21・22万円が懐に入る勘定だな。転作しろ、転作しろ、適地適産というけども、いうは易く、実行は決して楽ではねえ。企画がいくら良くっても、経営的に規模拡大につながらねことをやったんでは、われわれに対する評価はゼロってことだっぺ。指導、普及はつらいよ。”

と述懐するが、斉藤さんの面上には、屈託(くつたく)のない笑いがあった。

だが夏秋きゅうりのあと、9月から約6haのイチゴの

本葉1.5本になったら、キャップの天井を破き、本葉2.5枚でキャップを除き、ハサミで切り1本立とする。

施肥

標準施肥量で窒素41kg、燐酸43kg、加里36kgとなる。

(別表参照)なお収穫後半には、葉面散布による追肥も考慮する。

なお、乾燥防止、病害予防、表土の固結防止に効果があるので、追肥、中耕に併せて、敷わらを十分に行なうこと、また、乾燥は浅根性のきゅうりには直接、草勢や品質に影響するし、多湿も病害発生のもとになるので、灌水には十分注意する。とくに水田利用の場合の排水溝は完備することが大切である。

整枝と摘芯

① 側枝の発生が多いので、常時早めに摘芯し、こみ合わぬようにする。

② 株元の不用の側枝(1本仕立、1、2、3、4節、3本仕立1、2、3節)は早めにかきとること。

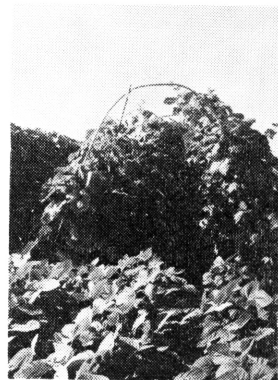
ハウス栽培がはじまるというこの産地にも悩みがある。

というのは、ほかでもない。この辺の生産農家の大半が、30才台から40才台の、いわば中堅層であるということ、そして当然の成行として後継者難に直面し、あるいは直面しようとしている人達が多いということである。

“これはここに限った問題ではねえけども、こればかりは、さすがの斉藤昭三にも手の打ちようがねえ。何しろ問題が大き過ぎっからねえ。”

と、斉藤さんは苦笑するのであった。

“生きる”という、人間の生活にとって最も直接のつながりを持つ生鮮食料品の生産基地である“農村”の経済構造が大きくゆれ動いているとき、ここに生き、生活する人達をどのように指導して行ったら良いのか?恐らく斉藤さんは、その苦悩を潤達(かたつ)な笑いにまぎらしているのである。



正面からみた圃場

“議論はやさしい。”と、斎藤さんは云っていたが、いわゆる施策とか方針とかを打出すことは誰にもできる。しかし、それを現実に実施するのは現場の責任者である。筆者はこの点をしみじみと考えさせられた。

③ 子づるは2節、孫づるは1節で摘芯する。

④ 収穫最盛期から枯葉、ムレ葉、病葉が出たり、つるが重なって、通風、採光が悪くなるので、徹底的に整備する。(以下略)

—・—・— 9月27日、ことしの稲作減反計画に、**あとがき**
—・—・— 各県がどういふ協力体制をとったか、その結果が公表されました。目標の230万トンにチョット足りないというところですが、まあまあ線でしょう。

それにしても正直なもので、転換しにくいところ、転換しやすい地域、産米の声価に自信を持つ地方など、それなりに、その地域の心構えが数字に現われたということでしょうか。

異常続きの天候は、その後も一向にさえず、最近の長あめは、いつになったら止むことやら。いささか嫌になりました。ご健勝を祈ります。(K生)